

日本児童・青少年演劇劇団協同組合

【世界のベイビードラマを学ぶ】2015.1.24－2.1（福岡・名古屋・横浜）

-講 義 録（後半）-

講師：Diana Krzanic Tepavac（ディアナ・クルザニッチ・デバウアック）

通訳：大谷 賢治郎

- Contents -

1. 二つの重要な前提	…2
2. ASSITEJ について	…4
3. Baby Drama のはじまり ～初期に行われた三つの事例～	…4
4. Baby Drama に求められる要素	…5
5. アーティストに求められる要素	…6
6. 事例紹介（映像）より	…7
7. Q & A	…9

記録：大沢 愛

## はじめに

これは私の一方的な講義ではなく、様々な境界線を取り外し、今日お目にかかれた皆さんとの交流と交換の場でありたいと思っています。なぜなら、そもそもアーティストの役割は、世界と出会うために、境界線を取り払うことにあるのですから。世界における児童演劇の環境、状況は違います。だからこそ、一方的に知識を提供するのではなく、交流の機会として今日の機会を生かしましょう。ベイビードラマの取り組みは、あらゆる境界線を取り払い、全ての観客が演劇と出会うい得る、そのためのムーブメントなのです。その創造性に気づき、新たな世界を繰り広げ、挑戦しているのです。

TVY (Theatre for Very Young ) に関して。

大人の選択、大人が何をどのように考え行動していくか、ということに関わる問題です。子どもたちの知覚、感覚に働きかけるものであると考えれば、必要不可欠なものであるといえます。

私自身は、長年にわたる女優としての活動を経て、Petagogy の仕事をしていました。

※Petagogy ペタゴグ…学校における芸術活動、舞台作品の紹介、コーディネートのアドバイザー。現在はアシテジ世界理事としての活動が主な仕事です。(日本からは藤田あさや氏が世界アシテジ副理事長)。

---

## 1. 二つの重要な前提

- ① 国連子どもの権利条約 31 条より、全ての子どもは人権を持っており、全ての子どもは自分たちの人生を豊かにするための経験、それを得る権利を持っているということ。
- ② 社会学的な観点からみた子どもの発育、発達的重要性。科学的研究をもとに、児童演劇もまた変化、成長を遂げていく必要性があるということ。

新たな世代が次々生まれてくる中で、どのように彼らと出会っていくことができるのか。どこで誰に向かって行動を起こすのか、これはとても重要です。例えば「子ども時代」の解釈と、実際の「子ども時代」の間にも大きな隔たりがあります。各国による差はありますが、急速に変わっている世の中の現状、今の社会状況を受けて、ベイビードラマもまた世界各地で必要性が高まり、発展しつつあるのではないかと考えています。ベイビードラマにおける観客は非常に直接的に出会う相手ですから、当然相手を知る必要があります。芸術において社会や政治、行政がそれをどのように捉えるかを考えることも重要です。また芸術家は、世の中の様々な事象を変換させる役割を持ち得ます。芸術といわれるものの、内容も形も、私たち大人が作っているのですから、その責任は大きいのです。

## ASSITEJ について

### 【アシテジの基本的役割】

乳幼児に対しての表現活動の重要性を国、自治体、政府がどこまで関心を持っているのか、という問題があります。児童演劇の実践、ベイビードラマの実践において、アシテジ（90か国が参加している）での意見交換が一つの切り口となり、ここ3年ほどで、大きく変容しています。アシテジが最も重視している活動の一つは、ネットワークの構築です。昨年新たに、今回のテーマであるベイビードラマの発展を考える Small size というネットワークも作られました。本質の理解と共有は重要ですし、交流し合う場として、アシテジを活用していただけたら幸いです。藤田あさや氏、大谷賢治郎氏も日本理事として活躍しています。是非ウェブサイトから情報をご覧ください。

### 【ASSITEJ SERBIJA (アシテジ セルビア) について】

NGO 法人。(約 50 法人+個人が所属) ダリアもその一人です。

セルビアにおける児童演劇の実情は、国の助成金が主な活動資金です。歴史的には、世界大戦後、児童演劇の活性化に伴い発展し、基本的にはプロフェッショナル集団による、プロフェッショナルのための組織です。創造的な可能性がどこにあるのか、真実のアートを提供するためには、という議論を重視して活動をしています。変容する社会、子どもたちの現状に対し、新しい（これまでにない）アプローチの検討、新たな試みに対するサポートにも力を入れています。(今回の Baby Space 含む)

実状としては、ロシア演劇の影響も大きく、レパートリーシアターと呼ばれるジャンルが多くあります。国からの助成を全面的に受けて創作をすることからも、言語を用いたテキストベースの作品、なるべく大勢の観客に観てもらおう商業演劇ベースのもの、学校側、政府からのウケのよいものが多々あることも事実です。童話等をもとにしたテキストベースの創り方、予め結末が分かるものが主流だと言えるでしょう。残念ながらそうした情勢の中で、新しい試みに対するサポート体制はまだまだバランスが取れていません。私たち演劇人にとって、作品創りはどうしても金銭的支援体制に捕らわれます。これはセルビアだけの問題ではなく、世界に共通する新たな挑戦に対する困難です。

しかし 80 年代以降、既存の枠にとらわれない新たな演劇の在り方を模索する動きも出てきています。社会が大きく動いた時代、子ども時代の在り方もまたずいぶん変わりました。少数の観客との向き合い方、空間の捉え方、特に乳幼児のために演劇において、新しい発見、新しい試み、観点を持つことが必要であり、様々な実験的な活動がされてきました。(これらの動きの科学的根拠については、ダリアの話にあった通りです)

## 2. Baby Drama のはじまり～初期に行われた三つの事例～

90 年代前後、児童演劇においてヨーロッパでは非常に新しいムーブメントが起こりました。Baby Drama の先駆的取り組みとして下記の 3 つのプロジェクトを挙げます。

【TVY (Theatre for Very Young) の初期 3 つの実践例】

① 1998 ノルウェー「クラングフル」 事実上初めての試み

ダンスおよび、フィジカルパフォーマンス。

何人かのダンサー、アーティストたちと赤ちゃんがどのような反応を示すのかを考えながら試みた。ノンバーバル、パペット、マイム、ダンスの要素が合わさった作品。大変好評目つ手応えのある試みだった。これがきっかけとなり、EU の国々が集まり、グリッドボードプロジェクトがスタートした。非常にビジュアルでフィジカルなもの。

② 「オープンハウス」バーミンガムシアターでのオープンハウスの取り組み。

通称バーミンガムレップ。空間、インスタレーション、ビジュアルアーツ。

社会学的見地からの実践、目つインスタレーションアプローチ（空間）の最初の事例。地域的に貧しく、通常であれば個人や家庭では、演劇鑑賞等の機会は生まれ得ない環境。今日もなお課題になっている「観客をどう育てていくか」、という問題提起においても、取り入れられる視点。

2004 年 10 月に生まれた赤ちゃんに、10 年間、舞台を観るための年間フリーパスを提供し、その子どもたちの育ちを検証する実践が行われた。（バーミンガム市の事業として）劇場に展示された空間を提供することからスタートした。

現在のパフォーマンスアーツにも関わることだと思うが、このプロジェクトのポイントは、いわゆる鑑賞ではなく、常に開かれたスペースが用意され、時にパフォーマンス、時にインスタレーションが提供される空間（インスタレーション）の提供だったことも当時では画期的なアイデアだったと言える。

③ 2006 年 Suzan Orstin ベイビードラマの先駆者。

言語を用いた最初のベイビードラマと言われる。伝統的、典型的な舞台の手法。セリフベースの作品として、また「Baby Drama」と名付けられて実践した初めての試み。80 分 6 か月～18 か月。3 つの要素で構成されている作品を創った。

1. ピーカーブーの要素（発見というコンセプト）

2. 道化のムーブメント

3. 物語よりも、日常の生活の中でフィードバックされる言葉（テキスト）の起用。

例えば言語を用いた作品の言葉の意味が、そのとき赤ちゃんにわからなくても、それが日常生活の中で、その後の人生の中でフィードバック、リフレインされることもある。  
(memo)

- ・先駆的なスウェーデン、ノルウェー。社会的にビジネスに成り得ない Baby Drama に取り組むことができる豊かな社会。社会的価値観。特に北欧、ヨーロッパにおいて顕著である。
- ・ベイビードラマへのチャレンジにあたり、プロの俳優を説得することが難しかった。科学者、心理学者たちとの研究 議論を重ねた末の最初の作品。鑑賞中の親子の出入を自由にした。そのことを説得し、納得してもらうのはそれなりに努力が必要だった。

---

### 3. Baby Drama に求められる要素

【ベイビードラマの本質的なポイント・観客である赤ちゃんとの向き合い方】

by スザンオースティン

- ① 赤ちゃんがその中心にあり、赤ちゃんに向けたものでなければならない。
- ② 赤ちゃんと直接的なコンタクト（直接交流）を持つ場であり、相互のやり取りが行われる場所である。
- ③ 赤ちゃんを個人として扱わなければいけない。
- ④ アーティストは赤ちゃんが歓迎されている（招かれている）と感じられるやり方で向き合い、そのための環境を整えなければいけない。
- ⑤ 赤ちゃんは参加者であると同時に、パフォーマンスの協働創造者である。

【創造性について】 Creativity

まず創造性とは幼い子どもの発達をサポートする重要な要素です。創造性によって Baby が何らかのインスピレーションを得るのであれば、それはアーティストにとってもまた素晴らしいインスピレーションを得る機会となるでしょう。

同時に、親に向け、彼らの日常生活においてもまた、そのクリエイティビティを用いることができます。そのことによって、親自身がより日常を豊かにしていくことができる、というよき提案にもなり得るでしょう。

さらにアーティストと親の中間に存在する教育者における創造性もまた大事な存在です。赤ちゃんであれば両親が共にいるが、Small Size（5歳くらいまで）は教育者、保育者が介在するケースが多々あります。

#### 4. アーティストに求められる要素

【「不思議に思うこと Wonder」に対する感性】

【真実人間を知り、人間を学ぶこと】

一般的な演劇の在り方として、既存のものを再生する傾向がある中で、Baby Drama は、出会い方、創り方、あらゆる側面において、非常に新しく、既存の知識に頼ることができない分野です。中には、向き合えないアーティストもいますが、向き合える人であれば、そこから得るインスピレーションや感情の動きは大変大きいものであるはずです。

捉え方を間違えると、赤ちゃんは何も知らないから何をしてもいい、となる場合があります。赤ちゃんは薄い紙のような存在、彼らはアーティストと関わることによって、必ず何かしらを受け取っています。アーティストにもまた多様な可能性があります。アーティスト自身が学ぶことで、作品の新たな可能性を見出すことができます。まっすぐに目をみる赤ちゃん。このことが実現するには、俳優側が向き合い方、関わり方を学ぶ必要があります。

【赤ちゃん、そしてアーティストの双方にとって初めての経験であること】

「出会いの深さ」にとても大きな意味があります。赤ちゃんがパフォーマンスで得る体験の大きさは計り知れません。公演中のリアクションだけでなく、その日の体験を元に明日生まれるリアクションもある。計り知れない可能性を秘めている新しい分野です。

【ありのままの人間であること】

赤ちゃんとアーティストは、一方通行ではなく、直接的に関わり合う関係性。またアーティストが演技をすることができない、ありのままの人間でなければならない。赤ちゃんに嘘をつくことはできず、そこには真実しかありません。

【関心を持つこと】

この仕事は、乳幼児に関心がなければできません。では、どのような関心の持ち方でしょうか。学ぶ姿勢があること、そして、赤ちゃんに対してオープンな姿勢であることが必要です。「発見」を重ねる作業であると言えます。好奇心がアーティストを突き動かし、赤ちゃんを突き動かすものもまた、好奇心です。

**児童演劇の本質は子どもに対するチャレンジ。**

**子どもたち自身が生まれ持っている能力、感性、に対してチャレンジをしていくことが本来の創造活動である。**

## 5. 事例紹介（映像）より

### 【スペース（空間）の保証】

音楽的要素、柔軟で安全、柔らかな動きなど、基本的条件を満たすもの。

上演後に子どもたちが手にとって遊べる。その空間で過ごせる時間の保証。

創造性（クリエイティビティ）を引き出すことができるかどうか。

生まれてから最初の5年。もっとも脳が発達するとき。

赤ちゃんの脳科学を知り、不思議と思えることに赤ちゃんが会うことで、その子どもの創造性を引き出せるのではないか。そのためのスペースを用意し、提供することによって、赤ちゃんが自ら掴み取る体験をすること。

### 作品事例

★:Baby Space、 Book wondering（ダリア）

★「大事なものは何だろう」（A certain very important matters）

演出：Dalia

レパートリーシアターとして実践している作品の実例

ベルグラード（市）がサポートして取り組むことができた初めての事業

### 【経済的観点と社会的アプローチにおける実践例と課題】

ベイビードラマの宿命として、観客との直接的なコンタクトのためには一度に大勢に見せることが出来ず、極少数の観客に限られる。効果でぜいたくなものにならざるを得ない。つまり、常に経済的課題を抱えており、政府、行政、自治体等にその必要性を理解させなければ発展はありえない。金銭的支援者となるべき組織、人々との共有、認識を広め、高めていく必要性。きちんとプレゼンができるかどうか。

受け入れる社会的環境の変化と成長および発展、そして乳幼児作品そのものの発展及び研究の両輪が問われています。

社会的な哲学（Social Pylosophy）の観点から、この活動がなぜ必要か、どのように社会に貢献する活動であるかを、創造活動と同時に考えていかなければならない。

### 作品事例

★アイルランド 「Starcatchers」

多角的なアプローチの事例、社会プログラムの一環としての実践例。教育者を教育するためのワークショップ的プロジェクト。教育者が子どもたちの体験を実体験する機会、親子で来て、親子の遊び方、体験の仕方を共有し体感するプログラム。

経済性、実現性の重要性における成功例。社会的意義を打ち出す。ゲートキーパーとなり得る教育者のためのプログラムを提供。社会、地域を巻き込み、一丸となって取り組んでいるカンパニーの一つ。

★シカゴ：てんかんを持った障がい児を対象とした作品

金銭的な問題もあり、たった一度の上演で終わったが、継続性をどのように生み出すか「意義」の認知と周知が課題。

こうした事例のように、Baby Drama の多様なフォーカス（社会的貢献）を考えられないだろうか？アーティストとして、自らの芸術探求は大切であるが、そのためにはアーティスト自身が社会性を持ち、社会的貢献ができる活動を生み出していくことが必要。社会が必要としているものに目を向け、社会の支援を積極的に受けるといふこと。ベイビードラマはその可能性を持っている。

【生演奏（音楽）の重要性】

作品事例

★ストーリーテリング形式+楽器の生演奏（カナダ ケベックの実践例）

theatre: Le Thetre de Confettis, Quebec, Canada

name of the play: „ Wawes, all that Glows Sees“

Director: Véronique Côté

★「バルーン」インタラククション手法の一つ

生演奏。集中できる時間が限られた乳幼児にとって、「場所を移動する」ということも一つの要素になり得るかもしれない。

★「洗濯物」ダンスとアコーディオンの生演奏

ドイツの国境近くに位置するフランスの作品。

【ダンス、フィジカルパフォーマンス等】

作品事例

★イギリス (UK) オイリーカート

エンターテインメントの高い劇団として有名。「リングリングリング」

障がい児のための演劇にも力を入れている。

★アイスランド『The bird and the bat』振付ベースの作品

周囲を取り囲む客席 とてもカラフル



(memo)

- ・興味深い共通テーマとして、「眠る」「眠り」などが見えてくる。
- ・親もまた我が子の新たな発見ができる、こともベイビードラマの一つの特徴と言える。
- ・ベイビードラマにおいても、ドラマトゥルグを立てることは必要。芸術的クオリティーは大人向け作品と同様に（それ以上に）必要である。
- ・空間も、音楽も、そこにあるオブジェクトもアートであり、且つドラマトゥルグになり得る要素である。
- ・ Key Word 「TEY (Teater for Early Years)」 / 「TVY (Teater for very Young)」

---

おわりに

最後に、みなさんへの質問です。

- ① 何をもって芸術的の体験の成功と言えるのでしょうか。
- ② 乳幼児を主たる観客であるとした時、その芸術的質の高さは何をもって図ることができるのでしょうか。

即答するのは難しい問題だと思いますが、是非考えてみてほしいと思っています。

この問いは、経済的課題、資金をいかに確保するか、という課題も含め、様々な質問の答えや問題解決につながっていくのではないのでしょうか。

---

## 7 Q & A

Q：障がい児に見せる作品：創り方の違いってあるんでしょうか？

A：障がい児のエキスパートと共にアート作品を創ることはさかんに行われています。

子どもたちのためのダンス作品。例えば音が聞こえなくても一緒にダンスができる例など。

どの観客に上演をするのか、が重要なポイントで、観客を知ることが必要です。知った上で作品を創る。児童演劇であれば児童のことを、ベイビードラマであればベビーのことを学び、共に考えていくということ。(1/24@福岡)

Q：昨年の5月 大洪水お悔み申し上げます。2011年福島原発の事故、ヨーロッパで一番最初に現金でカンパを送ってくれたのがセルビアだった。1990年から2000年にかけてのセルビアの紛争、経済的にも大変な時代を経てきたと思う。その間、児童演劇関係者はどのように過ごしてきたのか。(1/24@福岡)

A：避ける傾向にある話題であるけれども、ご質問をありがとうございます。

時としてこのような話題は、自分たちの感情をあらわにし過ぎて、相手に負担を感じさせる傾向がありますね。

90 年代、紛争時代、児童演劇者が最初に子どもたちへのサポートを始めました。政府は全く無関心でした。ユーゴスラビアからの難民、その子どもたちに関わりを持つとした（精神的な意味合いにおいて）のもアーティストです。困難があったときに、人間の本質があらわになると思うけれども、御幣を恐れずに言えば、そうしたときに最初に支援の手をさしのべられるのはアーティストであると言えます。

私自身、困難な時代に最初の子どもの産みました。学校にも行けるかどうか、様々な問題がある中で、何が彼女を幸せにすることができるのかを考えていました。文化的に閉鎖された空間の中にいたので、世界で何が起きているのかわからずにいましたが、自分自身が世界に出て、アシテジの活動に関わり、見つけたことは共通性です。世界で同時期に同じムーブメントが起きていることを目の当りにし、改めてアートの重要性を再発見しました。

Q：セルビアでの乳児作品の上演回数、また社会的援助はどのくらい受けられるものなのか。アーティストは生活していけるのか？（1/25@福岡）

A：レパートリーシアターの場合で、多くて月に 1 回程度です。

劇場によりますが、フリーのアーティストが生活していくことは、とても厳しい現状です。国家からの助成金は減少しています。昨年度の国の文化予算は全体の 0.68%、その中で児童演劇に残るお金は最後のごく僅かなものです。

Q：Baby Drama にストーリーはいらない、ということについてもう少し聞かせてください。（1/28@名古屋）

A：直線的な、起承転結があるものを必要としないということです。物語性がなくてよい、と言った意味は、物語を説明するのではなくて、その環境や空間にある「点」において何かが生まれ、何かをみせるもの。したがって、ストーリーを持つ、というよりも、フレームワークを持つことが必要なのではないでしょうか。例えば、いくつかの「絵」の積み重ねであってもよい。それらが Baby にとっても、何かしらの体験につながるものだと考えます。また赤ちゃんたちは、私たち大人が思っている以上に知的で豊かな存在なので、決して低くみてはいけません。自ら発見する存在であり、そこを奨励する必要があります。赤ちゃんがついてくるのではなく、大人たちが付いていくべき存在です。

Q：感想です。今日初めて「子どもたちが主体的に動き出す」芝居を観ることができて、とても幸せでした。（1/28@名古屋）

Q：最後の質問の芸術的レベルについて、世界的に素晴らしいバレリーナや演奏家はいるけれ

ども、もっと子どもたちと会話ができる、子どもたちに直接投げる、また受け取ることのできるの方が求められるのではないかと思います、どうなのでしょう。

(1/29@名古屋)

A：その通りではないでしょうか。有名な人、肩書が求められるのではなく、最も重要な要素の一つは素直さ、そして継続していくこと、やり続けることによって、普遍的なハイレベルを追求できるものだとも思います。

Q：感想です。5 か月のれん君を抱いて鑑賞しました。彼は途中自分で靴下を脱ぎました。そしてダンサーを追いかけるようにして、寝返りを打ちました。後から母親に確認すると、生まれて初めてのこと。

大人である自分自身は、「わかるか分からないか」「輪を乱さないこと」「調和を求められている」といったことに、いつも捕らわれている気がします。今日のパフォーマンスは、自分自身がそれらの概念から完全に開放されていたのだと後から思いました。海の底にいるように、時間の概念からも解放されていました。お母さんたちが口々に「幸せ」と言っていました。「本当に幸せだった」と言っていました。すごい！と思いました。

Q：音楽分野のアーティストとして、BABY Drama に関わった経験もある中で、Theater という言葉の使われ方が気になっています。ミュージシャンのサイドから、ベイビードラマを創ろうとする動きはあるのでしょうか。(2/1@横浜)

A：あります。去年はワルシャワで、その前はリンツ、その前は沖縄でアシテジのミーティングがありましたが、今回はアーティストそのものと向き合う、中でも「音楽と演劇」「音楽の演劇」がテーマでした。ミュージシャンがパフォーマンスをする、アクターがミュージシャンにもなり得る、ということは多々起こっており、その区別がつかないケースもあります。むしろ必須条件になりつつあります。結論として、シアターは全てを包括するものであり、境界線は取り払っていくべきものだと思っています。例えばオペラ歌手であれば、歌って演じることは当然。日本の課題としては、一人のパフォーマーが持ち得る多面性が、画一的になりがちだが、徐々に変わり始めています。